

〈インタビュー記録 5班〉

対象者：A氏

テーマ：就職活動について

インタビュアー：齋藤雅彦、大上梨奈、尾崎諭

◎就職活動を振り返って—自然体になるためのプロセス

自己プロデュース—企業の求める方向に私を作りこむ作業

本格的に就職活動を始めたのはちょっと遅めで3年生の1月ぐらいです。ちゃんと取り組み始めようと思ったのが1月で、それから色々な企業を見始めた感じです。そこから企業に行ったり、選考とかも受け出したりって感じで、企業と繋がりを持ったのが1月ということになります。大きな説明会とかは12月までにちょこちょこ行っていました。

就職活動サイトの特集とかを見ると、なんとなく似たような企業が気になって、本当漠然な言い方をすると、例えば、色々な人に会えるような職種が多いじゃないかなとか見つかって、そこから広げていくみたいにして企業は選んでいました。私は、人に伝えるのが好きで、特に自分がいいって思うものを伝えた時に人が理解してくれると喜びを得られるなっていうのを感じています。例えば、メーカーの営業とかで自分の会社の製品の良さを相手に知ってもらえたときに嬉しいんじゃないかって思い、メーカーを調べたりしました。

何に関しても知るっていうか、自分であったり、受けに行く会社であったりを知ることが、やっぱり大事です。コミュニケーションにおいても大事だから、社会に出ても知ろうとする姿勢は大事だと思いました。ただ、自分自身を知ることには抵抗がありました。ちょっと逃げたりもしました。だから、具体的に掘り下げることもできてなくて、だけど、エントリーシートを書くときに自分がどういうこと頑張ったかとか、何を学んで成長したかっていうことを考えるようにはしていました。就職活動をして思ったのが、もし気になる企業があったのならば、その企業を調べて、企業の求める方向に作りこんでいくほうが、就職においては大事かなと思いました。例えば、好奇心旺盛を求める企業なら、そういったPRを盛り込むのが大事だと思ったから、まず、それを知って自分をプロデュースすることが大事だと思いました。そのほうが、自己分析よりは作業的には簡単かなと。

後悔—取り繕っていた自己の気付き

就職活動での後悔はたくさんあります。準備不足だったので、企業研究ができていませ

んでした。だから、企業の問題とか、どういう方向性とか全然知らないまま受けて面接で困ったということもあったので、やっぱり企業研究をもう少ししておくべきだったという後悔はあります。企業を知らないままに面接とかして、ちゃんと答えられなかったりとか、就職活動に向けての準備を適当にやっていたりしたことが多かったので、選考を受けるときに苦勞しました。自己アピールだったり、頭の中で曖昧に考えていたことを話したりして、自分で判断していたことが多かったから、周りに見てもらえばよかったかなと思いました。自分がいいと思っても、相手もいいとは思わないでしょ。だから、やっぱり第三者、先生とか、友人とか、にも見てもらって、自分の良さが伝わっているかっていう確認作業をしてもらうことを、ちょっとできていなかったのが、後悔しています。

私、この就職活動で頑張れたって思うこと正直無いですね。会社について深く調べるとかの努力もしなかったし反省ばかりですよ。就職活動を甘く見ていて、いつもみたいにどうにかなるだろうってすごく楽観的でしたね。「自分を褒めるところがない」ってことが、私の就職活動の最大の反省ですかね。褒められないです。

やっぱり、今の会社に内定をもらえたのは相性でしょう。上手く言えないですけど、その会社での面接は、今までの面接とやりとりから違って、しゃべっている感じが良かったんです。今までの会社ではよく見せようと、取り繕っていたんですよ。

就職活動を始めたころは、面接で自分の考えを言えればいいのかなって思っていて、企業のこともあまり調べないまま面接に挑んでいたんです。それで最初は、とんとんと面接がうまくいって…だったら、「企業に納得させるような良いことを言ったら面接がうまくいくんだ！」って、考えるようになったんですよ。それから、逆にどんどん取り繕うようになって。企業に合わせる感じですね。

反省—自己プロデュースを超えた自然体へ

こんな状態が続いて悩んでいたんですけど、それまでは行動自体を駄目だったって認められず、親からもいろいろ言われたんですが、反発したくなって、ちゃんと向き合うというか、自分の行動を見直すってことをしていなかったんですよ。ただ、その頃に、ちゃんと落ち着いて、自分を見つめなおすと、自分を良く見せようとしていた気持ちが強くなったって反省したんです。そういうのも内定をもらえた要因は大きかったと思います。

そんな反省をしていたときに、今の会社の面接を受けたんです。面接をした時に、この会社だったら、自分の考えを受け入れてくれそうっていう感じがあって、正直な部分を出せたんです。なんか、この人たちには正直に言おうって思えました。その会社は、私の地元で、「女の子は事務」っていう感じでした。今までだったら、取り繕って「事務希望です」って言っていたけれど、「営業をしたい」っていう正直な思いを伝えたことから始まったんですよ。やっぱり、自然体の自分でいけたっていうことが内定をもらえた大きな要因じゃ

ないんですかね。どこの会社も話を聞いてくれていると思うんですが、自分が1番そう感じられたのが、今の会社なんですよ。だから、自分も自然体でいけたと思うんですよ。

もっとしっかり準備とか、OB訪問とかすればよかったですよ。でも、面接で取り繕ってきた自分の行動に対して反省して、入りたいという熱意を伝えることが大事ってことに気づけたことは良かったです。「取り繕う」というのは、その場しのぎでしかなくて、準備とかもほとんど出来てないままに、本当に付け焼刃で面接に行っていて、本当に行きたい企業だったら、その企業の求めるところに作りこんでいく、プロデュースするというプロセスが踏めると思うんですよ。そうしたら、自然体になると思うんです。

銀行とかも受けたんですけど、銀行の事務とか営業とか本当はしたくないのに、企業に受かるために、企業が求めているから「やります。」って言っていたんですよ。本当は、地域に密着した広報とかをやりたかったんですけどね。今になっては、逆に言ってもよかったかなと思います。それで駄目だったら、自分を選んでくれなかったら、「それでいいや。」っていうぐらいの気持ちで望めばよかったって。

期待—説明会から得た志望動機

どこでも出来ると思うけれど、私は働いて自分を内面的に成長できたらいいなって思っています。そして、内定をいただいた企業は何でも一から教えてくれるのではないから自分で聞かないといけない、でも、わかること、わからないことを判断した上で聞かないといけないという厳しそうだけれど、成長できそうという社風に魅力を感じました。後、小さなことかもしれないんですけど、説明会の工場見学のとときに二グループに分かれたんです。そのとき、先のグループが帰り際に説明してくれた部長さんに挨拶をしなかったらしくて、それを帰りのバスの中で社員さんが叱ったっていうのを、後のグループだった私たちにも伝えてくれて。就職活動中の学生にまで叱るのなんてなかなかないと思って、厳しいけれど、成長できるんじゃないかなと思ってます。

これから就職するんですが、私は人に対して失礼なことを言ってしまうたり、フランクな態度で接したりするところを就職活動でも反省していたんですけど、自分が思っている以上に、相手によって捉え方が違うから気をつけたいと思っています。あとは新しい環境に入るってことは、やっぱりわからないことばかりだと思うんですよ。だけど、なんでも聞くのではなくて、自分の中でわかること、わからないことっていうのをしっかり考えて、わからないことは積極的に聞いていきたいですね。その会社では、今までと違って技術職なんです。設計とかキャドとかやらせてもらえるので、できるか不安ではあるんですが、今までの環境も違うという刺激もあって楽しみだなって思います。